

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Basic あいおん		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 14日	～	令和7年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 14日	～	令和7年 2月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・自立や就職・就労に向けたスキルアップができること。	・企業や作業所での仕事内容のリサーチをして利用者の課題となる点がどこにあるのかを考え、支援プログラムを工夫している。また、それぞれの年齢層にあわせたものになっている。	・自立のため、また就職・就労してから必要な一般常識やコミュニケーション力などに必要なプログラムの充実。
2	・利用者だけでなく、ご家族にとっても相談できる場所であること。	・職員自身が障害のある子どもの子育て経験があり、実体験のもとに話をすることが出来る。法人内に複数の施設があるため就労後の様々な課題や余暇の過ごし方なども具体的に話せる。	・保護者会や茶話会などを行い、保護者同士が子育てについて話ができる機会を定期的に作り、保護者同士のネットワークを広げていく。
3	・多機能型であるため、少し先の成長や課題を具体的に伝えることが出来る。また、利用者同士も自身の将来を見据える事の出来る環境がある。	・幅広い世代の利用者さんがいるため、その世代の成長や課題となる点など実際にあった事例をお伝えするようにして保護者だけでなく利用者自身もこれから先をイメージできるようにしている。	・年齢で分けて支援をしているが、幅広い世代との交流も必要と感じるため、合同で活動できる機会を作る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・平日の一斉活動時間が短くなってしまふ。	・様々な学校から通所があるため、下校時間の違いから通所時間が異なること。	・短時間でも充実した内容となるよう課題や支援内容の工夫を行なっていく。
2	・早下校などのイレギュラーな利用に対応できないことがある。	・それぞれの年齢にあった活動を大切に考えているため、低学年と高学年を分けていることも一つの要因。	・運営方針の工夫によりサービス提供時間を変更することが可能かを検討していく。
3			